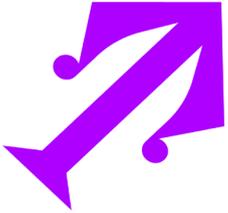


WHICH MIRROR DO YOU WANT TO LICK?



「どの鏡を舐めたい？」

デザインにおける
虚構と現実の狭間

Which Mirror Do You Want To Lick? どの鏡を舐めたい? —デザインにおける虚構と現実の狭間—

デザインが生み出すのは「虚構」か「真実」か。リサーチと対話から答えなき問いを「翻訳」するプロジェクト東京藝術大学・陳列館にて展覧会を開催。

フェイクニュースやイメージ編集で正しさの定義が揺らぐ今日、デザインが生み出すのは「虚構」か「真実」か。デザインされたイメージや物体が立ち上げるオルタナティブ・リアリティをテーマに、2016年のブルノ・ビエンナーレ(チェコ)を皮切りに欧米諸国を巡回してきたプロジェクト「Wich Mirror Do You Want To Lick? (どの鏡を舐めたい?、略称 WMDYWTL?)」の日本版が2021年秋、東京藝術大学を舞台に開催される。

実現しなかったデザイン案や実在しないアーティストの作品などをテーマに集めたこの展示は、近年のビジネスやテクノロジー指向の議論からは見えてこない、デザインの意味づけや問いかけとしての側面を浮かび上がらせる。開催される場所や時期にあわせて内容を発展させてきた同展だが、今回は日本および「教育」というコンテキストに挑戦。東京藝術大学の学生たちがキュレーターたちとともに欧州の展示内容を日本に「翻訳」する。また、テンプル大学ジャパン日本グラフィックデザイン史クラスも ZINE で展示参加。

キュレーションを手がけるのは、クリティカルなデザインの最前線で活動するデザイナー集団アバケ、ユニークな書体デザイン知られるラディム・ベスコ、グラフィックアートのキュレーターとして活躍するソフィ・デレン。また、日本巡回展のゲストキュレーターには東京藝術大学デザイン科教授の松下計、『アイデア』前編集長の室賀清徳、グラフィックデザイナーの鈴木哲生を迎える。

全42点の作品を対話とワークショップを通じて「翻訳」するプロセスのなかで、展覧会はさまざまな変化を遂げていった。本展は思想そして文化としての「デザイン」に向き合う重要な機会となるはずだ。

